

対人業務充実の意義と 対物業務効率化の妥当性

 **ファルメディコ 株式会社**

狭間 研至

我が国の医療が直面する課題

ポリファーマシー



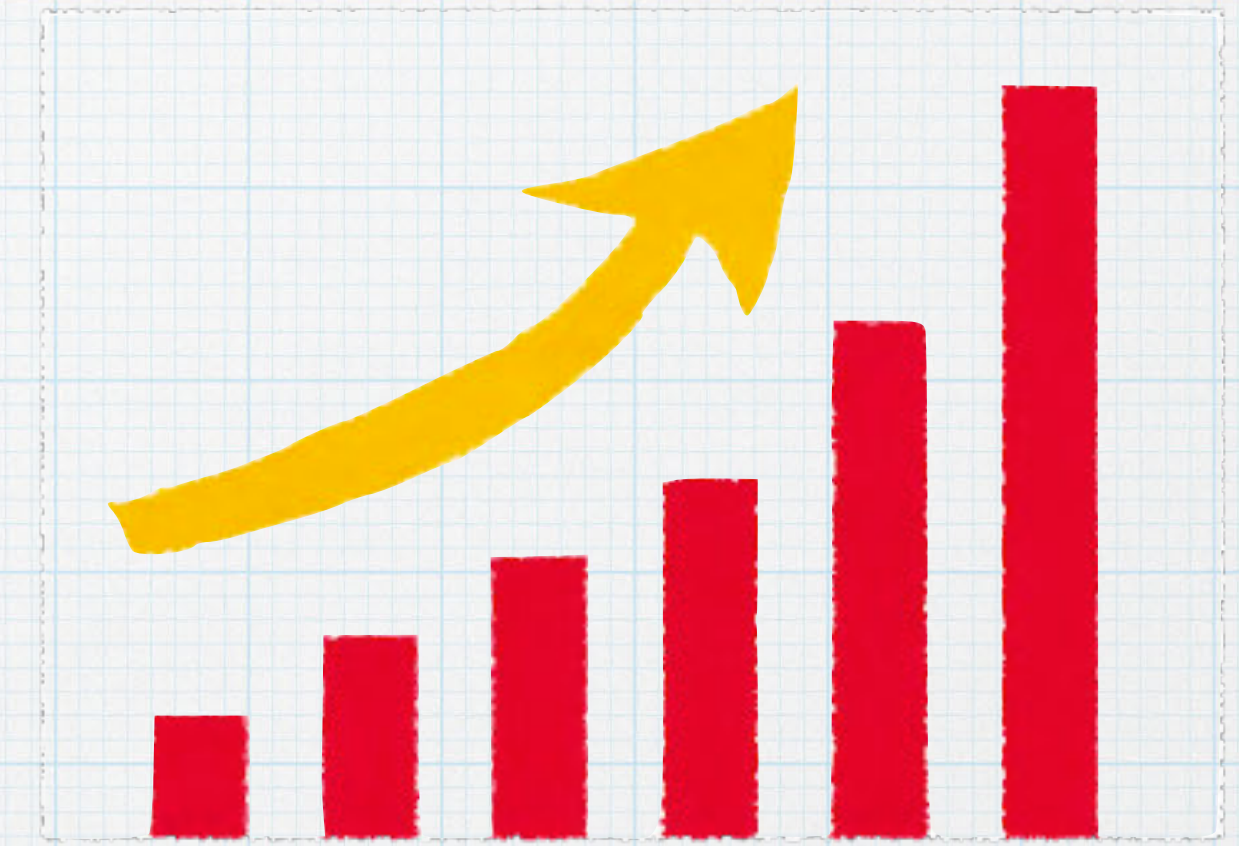
症状に基づき
医師は処方し
薬剤師は調剤する

医師の働き方改革



薬がなくなれば
医師の診察と
処方箋発行が必要

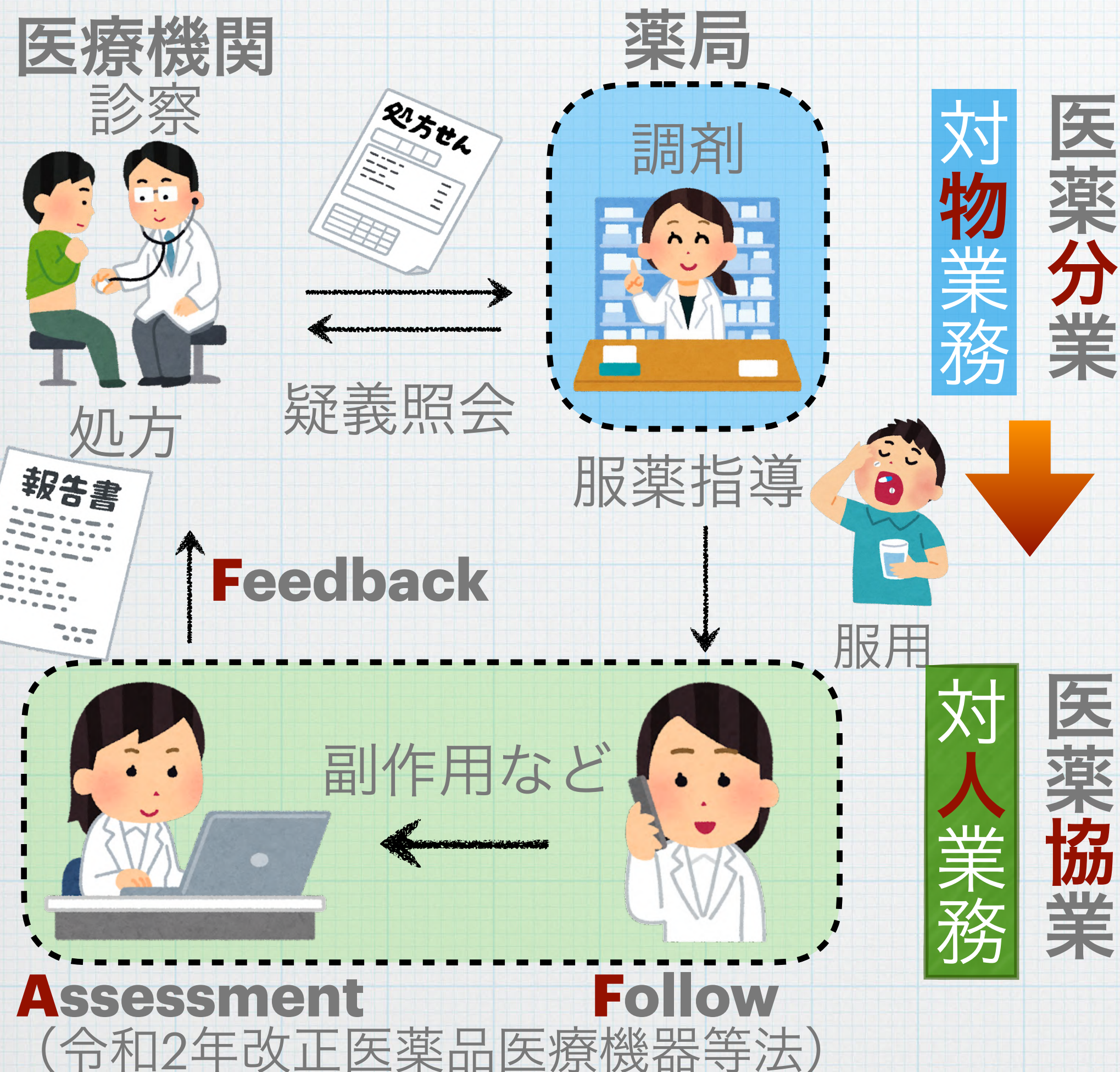
増大する医療費



薬剤師が判断できず
適切なタスクシェア
タスクシフトがない

形骸化した「医薬分業」のもたらした結果！？

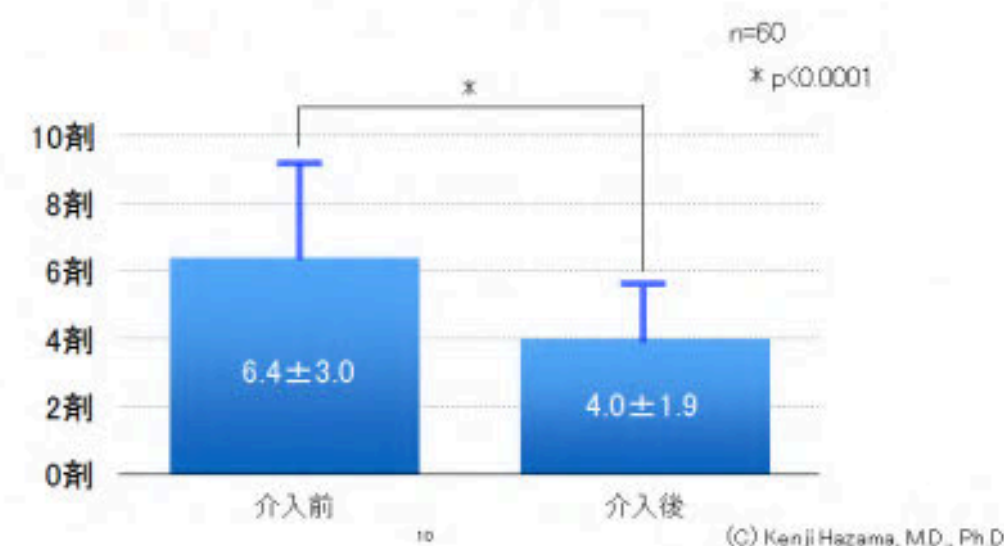
対人業務の充実が医療の課題を解決



在宅業務で医師と薬剤師の連携による評価

医師と連携して薬剤師が在宅訪問を行うことで、投薬数や薬剤費が減少。

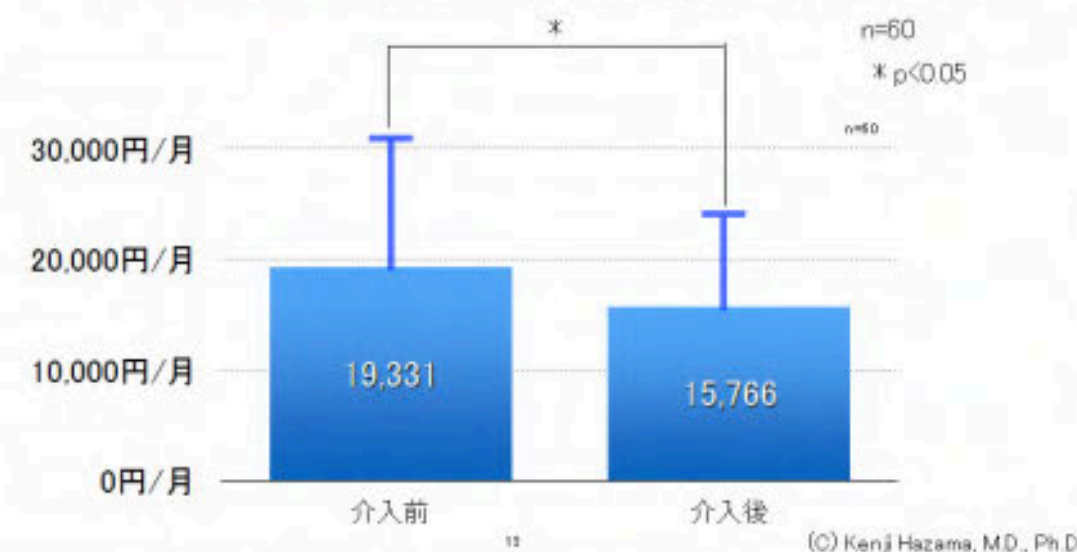
1人あたりの投薬数の変化



医師の訪問診療に薬剤師が同行した後、次回医師の訪問診療の前に薬剤師が単独で訪問して、薬学的に患者の状態を確認し、そこで得た情報を医師にフィードバックした結果

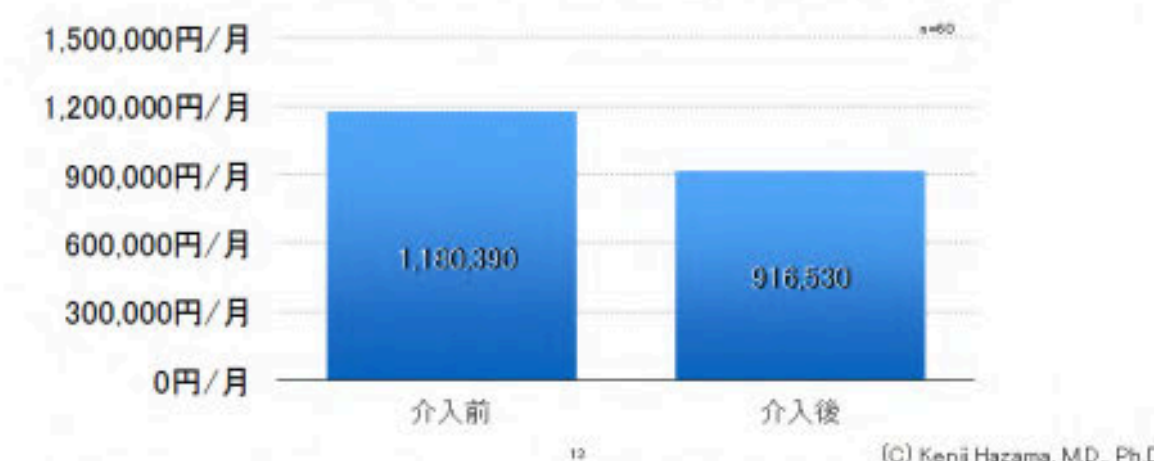
- 介護付き有料老人ホームの患者
対象 60名 (男性13名、女性47名)
平均年齢 87.1 ± 7.5歳

1人あたりの薬剤費の変化



施設全体の薬剤費の変化

60名で263,860円/月・施設の薬剤料減少



※平成26年度厚生労働科学研究費補助金「薬剤師が担うチーム医療と地域医療の調査とアウトカムの評価研究」シンポジウムより「薬局薬剤師が取り組むチーム医療～介護施設における共同薬物治療管理～(ファルメディコ株式会社 狭間研至)」

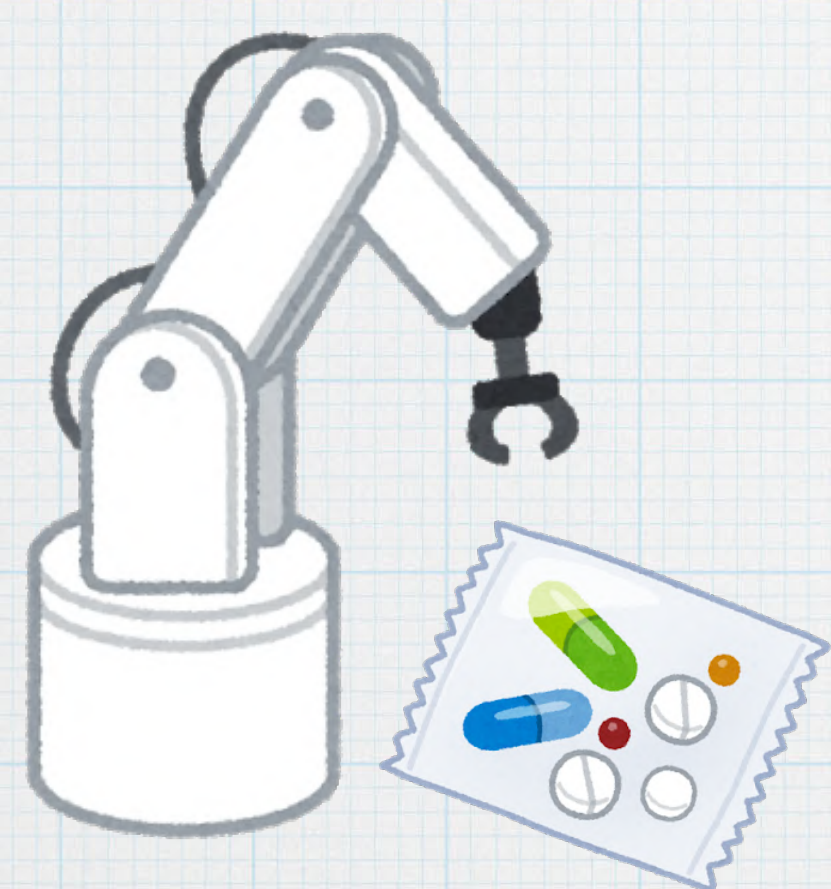
平成28年度 調剤報酬改定資料

<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12400000-Hokenkyoku/0000116338.pdf>

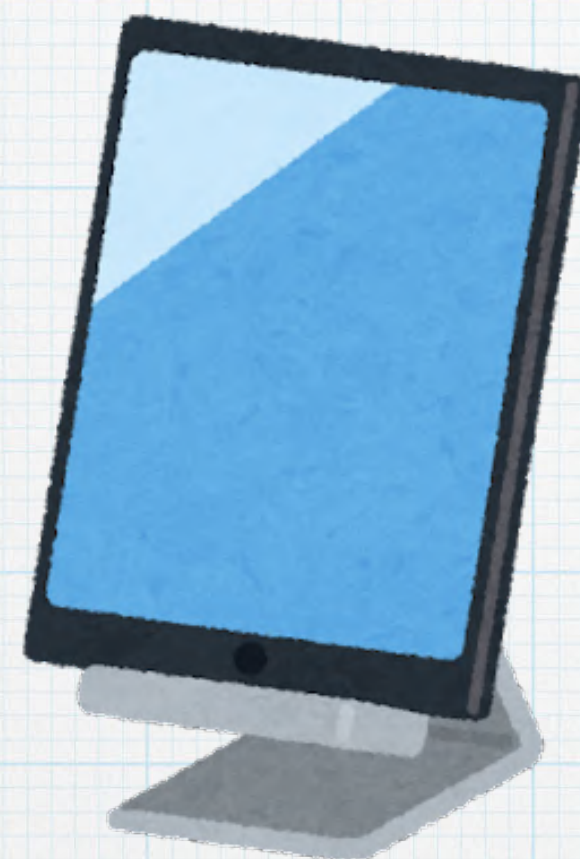
ポリファーマシー改善・医師の負担軽減・医療費適正化

薬剤師から薬局パートナーへのタスクシフト

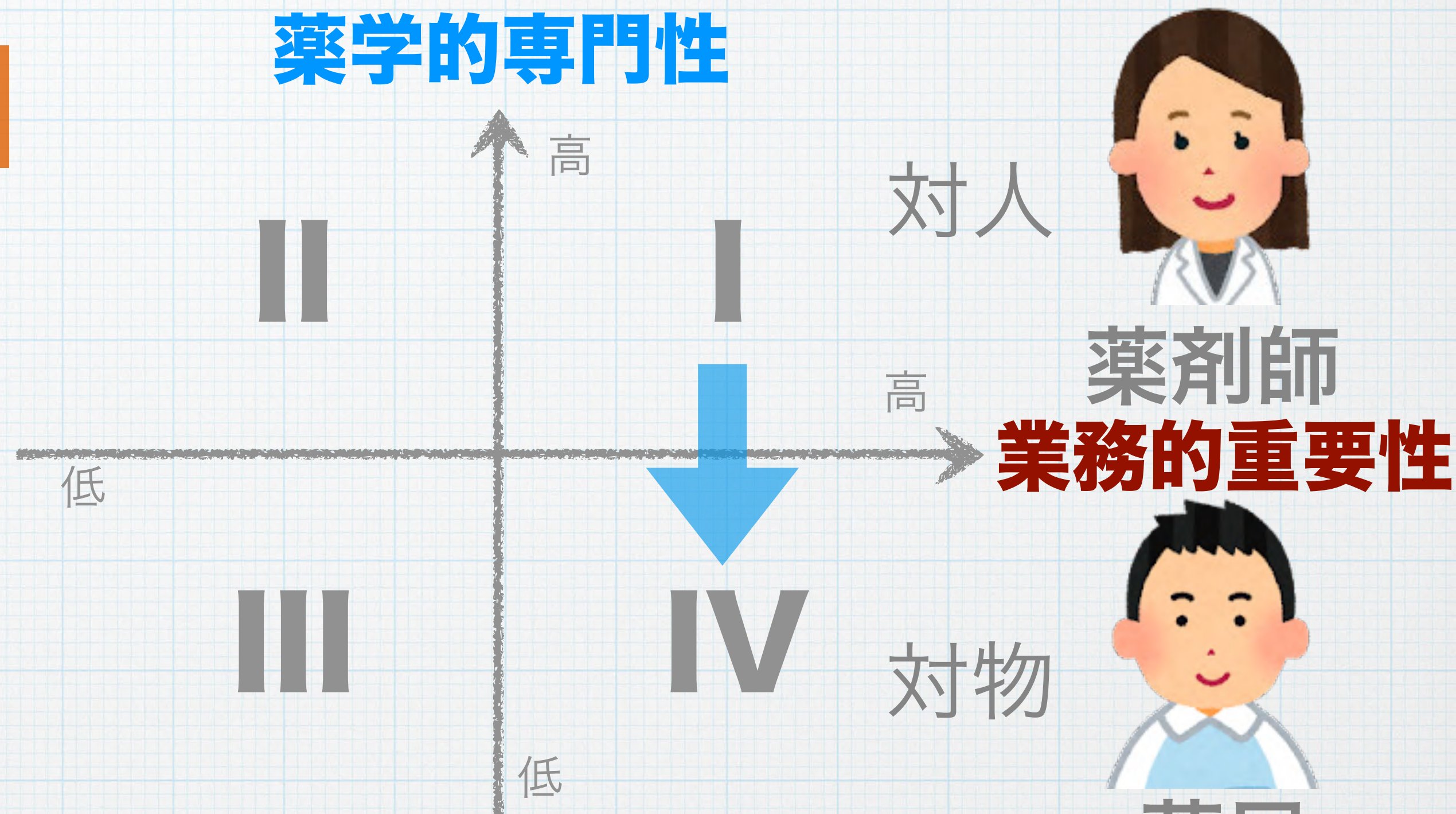
調剤業務における環境変化



+



+



薬剤師
業務的重要性

薬局
パートナー

①機械化

②ICT化

③業務内容の整理

手順書の整備

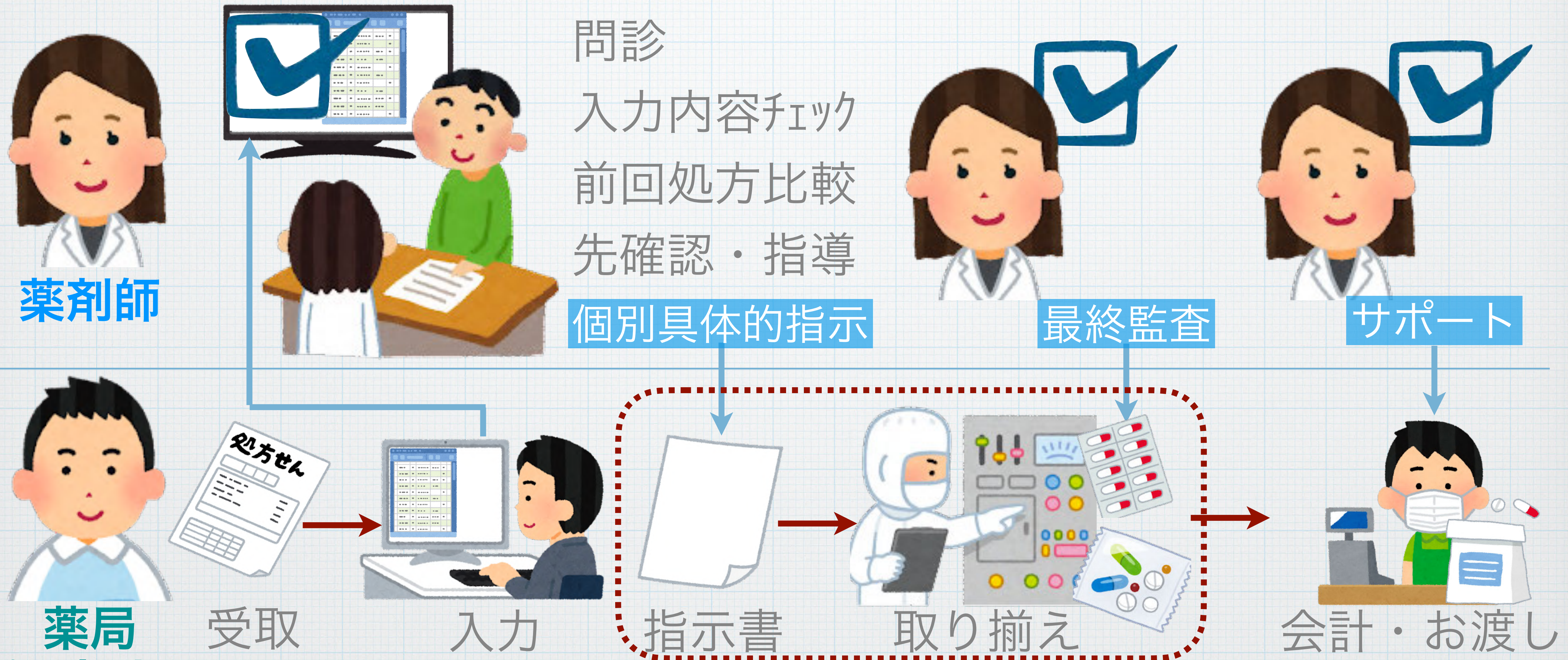
研修の実施

一般社団法人
日本在宅薬学会

- ・当該薬剤師の目が現実に届く限度の場所を実施されること
- ・薬剤師の薬学的知見も踏まえ、処方箋に基づいて調剤した薬剤の品質等に影響がなく、結果として調剤した薬剤を服用する患者に危害の及ぶことがないこと
- ・当該業務を行う者が、判断を加える余地に乏しい機械的な作業であること

0402通知 (薬生発0402第1号 平成31年4月2日)₄

「内部委託」という対物業務効率化



0402通知に準拠した業務